

令和元年 12 月 2 日

中央教育審議会生涯学習分科会 12 月 2 日の会議への意見提出

多久市長 横尾俊彦

### ICTリテラシーの生涯学習での学び充実について

今回の会議は多久市議会開会日と重なるため、出席が叶いませんので、以下の意見を添えて提出させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。  
本日の会議資料を送付いただき、今回はリカレント教育に注目してのヒアリングと伺いました。そこで改めて感じるがあります。

それは、Society5.0 の時代を想定してさまざまな備えをしていくにあたり必ず必要となるのが、国民のICTリテラシー向上の重要性ということです。

今回のリカレント教育の、「リクルートワークス研究所の“創造する大人の学びモデル”」、「文化服装学院生涯学習部の取組み」にしても、そのベースにはテクノロジー活用があると思います。特に「学び」の記録、学習歴の発信、学びによる自己実現、などはICTによるデータ管理と活用になると思います。

また、あらゆる学びの機会がICT活用を経由した情報収集や参加申込み、となることなどを勘案すると、日常におけるICT活用の能力向上は欠かせないものになると考えられます。

多くの国民が「人生の長寿化」とともに学び直しを思うとき、遠隔環境などにおけるMooc活用の学びなどになればなるほど、ICTに関する基本的知識は不可欠で、生涯学習でICTの学びを可能にすることは重要と考えます。  
また、その学習は、さらに昨今の特殊詐欺への予防にもなりえるはずです。

さらに子育て環境対応についてもICT活用によるシェアリングエコノミーサービスの活用も可能になる時代到来となっており、そこに適切に対応できるようにするためにもICTリテラシーは不可欠と考えられます。  
また、経済的な余裕のある人々のみのリカレント教育とならず、すべての人々の自己実現のためのリカレント教育が可能になるためにも是非必要と思います。

以上のことから、より幸福なSociety5.0の実現のためにも、ICTリテラシー向上の学びを生涯学習として可能となるような施策充実を期待します。